



# 柚木、漆、卯の染色

もようと色彩

2018年 4月3日(火) - 6月24日(日)

写真・型染むら雲三彩文着物 1967年 丈168・5cm  
協力・岩立フオークテキスタイルミュージアム / 大阪日本民芸館

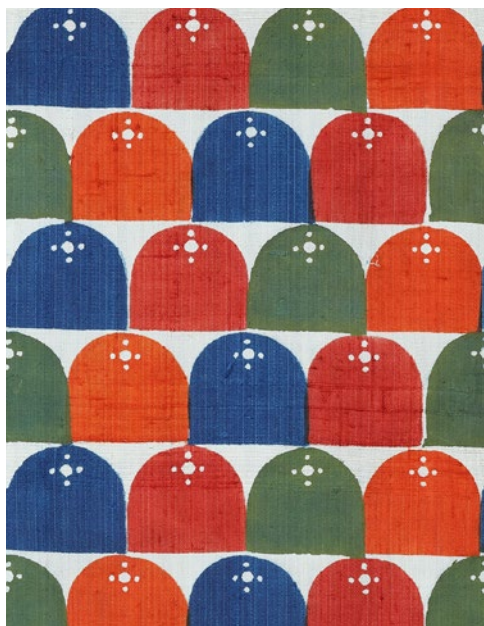
日本民芸館

1922年(大正11)に東京で生まれた<sup>のきさきみろ</sup>柚木沙弥郎は、当館創設者である柳宗悦(1889-1961)の思想と、芹沢銈介(1895-1984)の作品に啓発されて染色家の道を志します。自身の制作のほか、女子美術大学では後進の育成に力を注ぎ、当館が主催する日本民藝館展の審査にも長く携わってきました。近年はフランス国立ギメ東洋美術館など国内外で展覧会を開催、今なお旺盛な創作を続けています。

柚木は主軸とする布への染色のほか、ガラス絵、版画、立体、絵本、ポスターなど多様な分野にも積極的に取り組んできました。それは少年のような柚木の好奇心が駆り立てたことではありますが、視点を替えれば、形式化や惰性に陥りやすい工芸という営みの中で、自作を生き生きした境地へ循環させるための推進力だったともいえます。

柚木作品の特質は何と云っても、その生命感のある模様と鮮やかな色彩でしょう。柳は「模様の意義を解く事と、美を解く事とは同一の意味がある」としたうえで、「よい模様は直観で捕えられた本質的なものの姿である」「凡ての無駄を取り去って、なくてはならないものが残る時、模様が現れる」と述べています(「模様とは何か」1932年)。柚木による約70年の制作活動は柳の説く指標を真摯に追うものでもありました。

工芸において模様を作る力がますます脆弱化する現代、柚木が生み出す模様と色彩は、私たちの渇きを荒原に湧いた泉のように潤してくれます。本展では柚木の染色に焦点を絞り、作者からの新規寄贈品と、当館の所蔵品を中心に多彩な作品群を紹介します。



左上 型染蓮文飾布 1982年(部分) / 左下 型染爪文帯地 1991年(部分) / 中 型染布「2016・12」2016年 縦290cm / 右上・左 注染水玉文布 1960年頃(部分) / 右上・中 型染巴文布 1992年 縦289cm / 右上・右 型染大理石文布 1982年(部分) / 右下 型染飾布「メキシコ人物」1970年代(部分)

協力 岩立フオークテキスタイルミュージアム / 大阪日本民芸館

記念講演会 自作と日本民藝館 5月19日(土) 18:00-19:30

【講師】柚木沙弥郎(染色家) 【料金】300円(入館料別、要予約)

□月曜休館(ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館) □10:00-17:00 ※ただし金曜日は19:00まで開館(入館は閉館30分前まで) □入館料 一般1,100円 大高生600円 中小生200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸) 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで) □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □電話番号 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<http://www.mingeikan.or.jp/>

**日本民藝館**

次回展・書物工芸-柳宗悦の蒐集と創造 7月3日(火)~9月2日(日)

